

オンラインピアノカ ワークショップ

クリスマスメドレーを表現豊かに演奏しよう

I 知られざる「ピアノカの技」

- 1) タンギング
- 2) ダブルタンギング
- 3) ビブラート
- a) ブレスコントロールでクレッシェンドとデクレッシェンド
- 4) フラッター

II 練習曲を演奏してみよう

- 1) エチュード1（右手の練習）
- 2) エチュード2（両手の練習）
- 3) エチュード3（左手の練習）

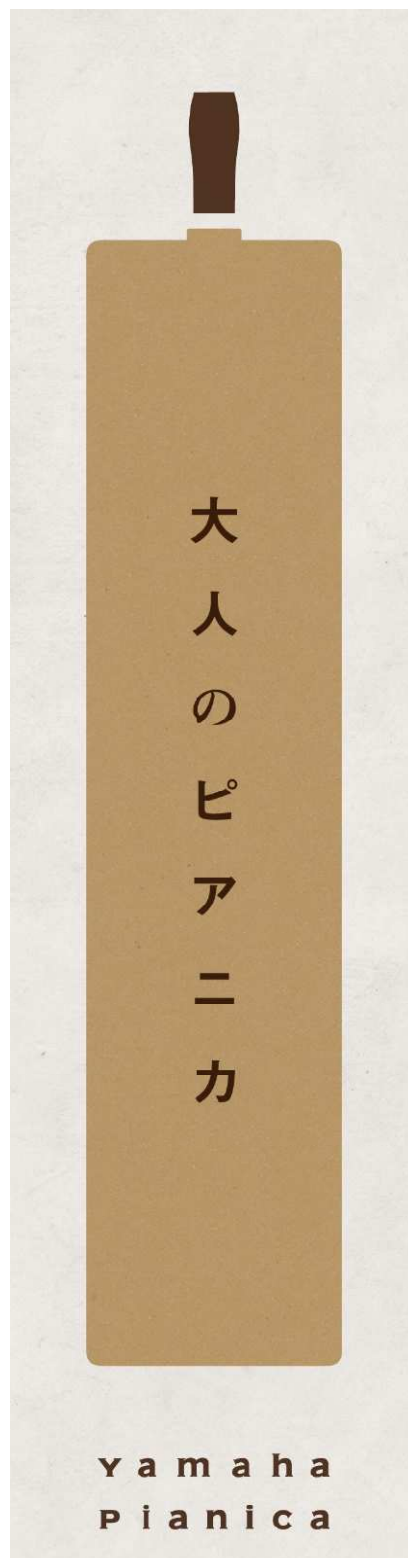
III 「クリスマスメドレー」を演奏しよう

2022年11月19日（土）

14:00～

Zoomウェビナー

講師 ピアノカの魔術師ミッチュリー



I 知られざる「ピアニカの技」(前回の復習)

1) タンギング

ピアニカは鍵盤がついていますが、基本的には吹く楽器です。
鍵盤を押しなおして音を切るのではなく、ふき口をくわえたまま舌を「トゥ」と発音し動かします。

下の楽譜を演奏するときは、鍵盤を押えたまま「トウトウトウ・」と演奏します。



2) ダブルタンギング ステップアップ

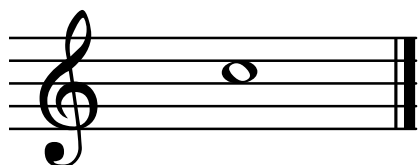
基本的なダブルタンギングは「トゥクトクトクトク」です。
難しい場合は、「トゥクトウトク」や「トゥクトウトク」
簡単なリズムから練習するとよいでしょう。



上手に演奏するポイントは、「はっきり発音することです」

♪ チャレンジ！

下の楽譜の音を使ってミッチュリーと「まねっこ遊び」をやってみよう。



ミッチュリー

みなさん

3) ビブラート

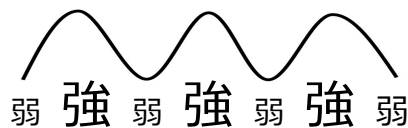
強弱を応用して、音を揺らす（ビブラート）ことができます。楽曲の終わりなどで、ビブラートがかかるととても美しい演奏になります。

次に、ピアノの鍵盤をおさえずに息を吹き込んでみましょう。

ほっぺたがプクッとふくれると思います。（顔や口の周りには力を入れないように注意して）

強い音を出した時にも同じようなほっぺたになると思います。

それらの音を交互に繰り返すことにより音に揺れが発生します。



POINT!

ひとつの音を弱い音でロングトーン演奏してみましょう
この時、まっすぐ細い息がずっと続くイメージをしてみてください
次に同じく、強弱をつけてロングトーンしてみましょう

3-a) ブレスコントロールでクレッシェンドとデクレッシェンド

息をコントロールして、音に強弱をつけることで、演奏がとても表情豊かになります。

息を弱くする（ゆっくり）＝やさしい音になります

息を強くする（はやく）＝力強い音になります

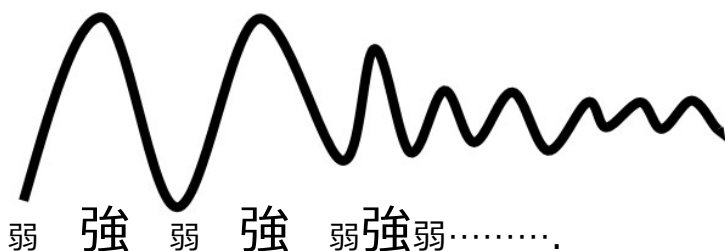
次に、強弱に変化をつけてみましょう。

息を弱くからだんだん強くすると＝だんだん大きな音になります。（クレッシェンド）

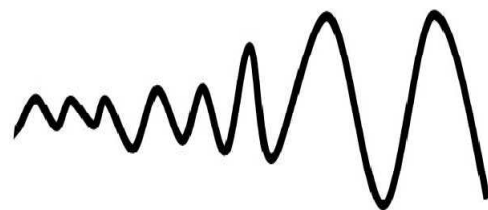
息を強くからだんだん弱くすると＝だんだん小さな音になります。（デクレッシェンド）

STEP UP!

次に、音の揺れの速度を変化させてみましょう。



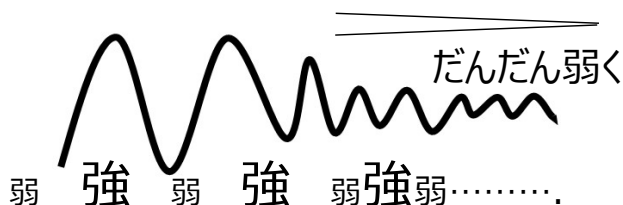
POINT! 弱い音から始めると
わかりやすいです



それでは、さらに **STEP UP!** してみましょう。

逆の表現もありますね

今度はビブラートに揺れの変化とデクレッシェンドをプラスします。



* またビブラート奏法にはいろいろな種類があります。
あごでかけるビブラートや腹筋でかけるビブラート・・・などなど。

4) フラッター

フラッター＝巻き舌（ルルルルルル……）のことです。
ダブルタンギングとはちょっと違う演奏表現です。



- 1.「ウ」の発音から「ル」の発音になった時の舌の位置をキープ
- 2.「息の量」と「スピード」が重要

5) ピッチベント奏法

鍵盤のおさえ方を変化させ音程を変化させます。



↑ 通常通り鍵盤を押えた状態



↑ わずかに鍵盤を押えた状態で演奏すると音程が変化します。

ご注意ください

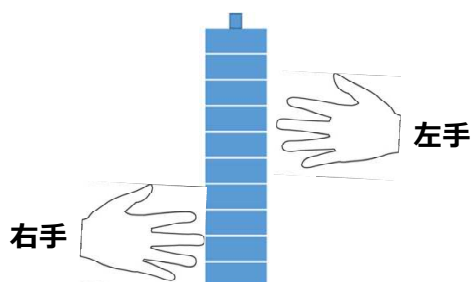
ピッチベンド奏法は楽器本体のリード（金属製）に大きな負担を与える恐れがあります。

両手演奏について

私たち人間は、左右同じ指を同時に動かすことが簡単にできますね。
ただそれだけです。

しかし、ピアノの指使いを見てみましょう。同じ「ドレミファソ」の音を弾くときに、右手は12345の指で、左手は54321の指を使います。ちょっと難しいですね。

ピアノを私のように縦に構えると、左手は鍵盤の反対側からおさえることになります。つまり、右手も左手も同じ運指で演奏できるという訳です。

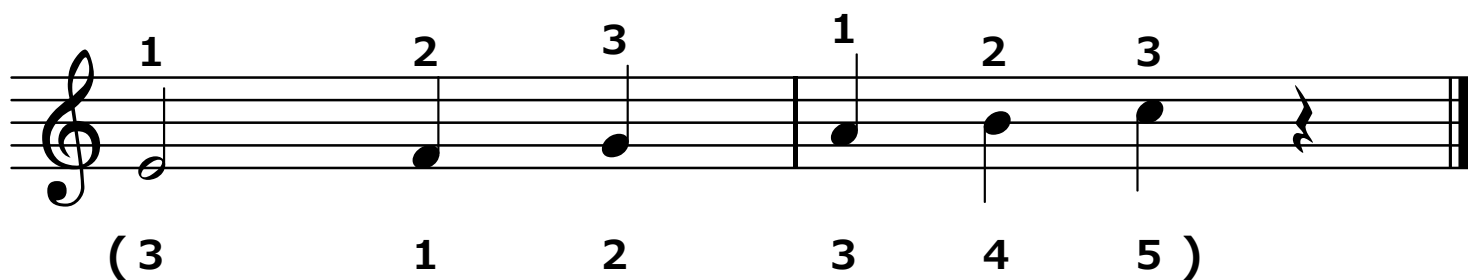
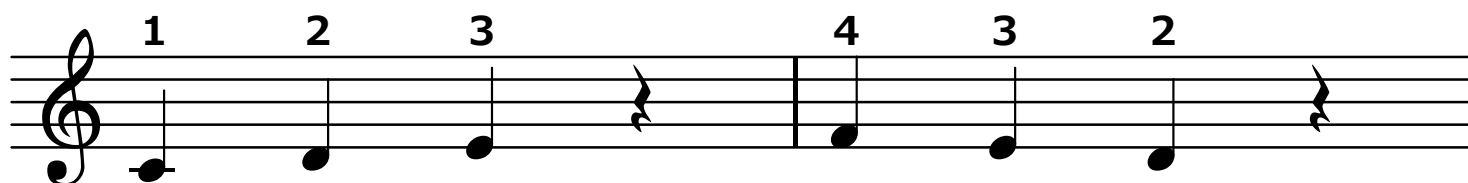
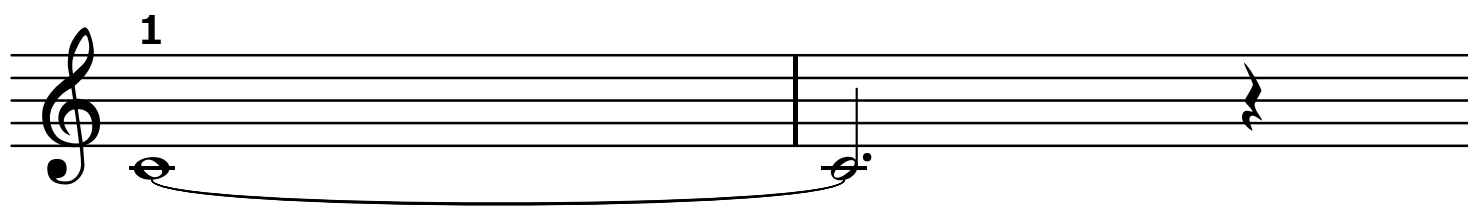
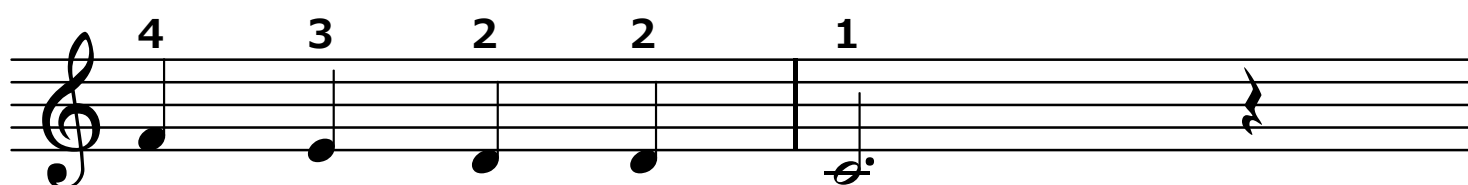
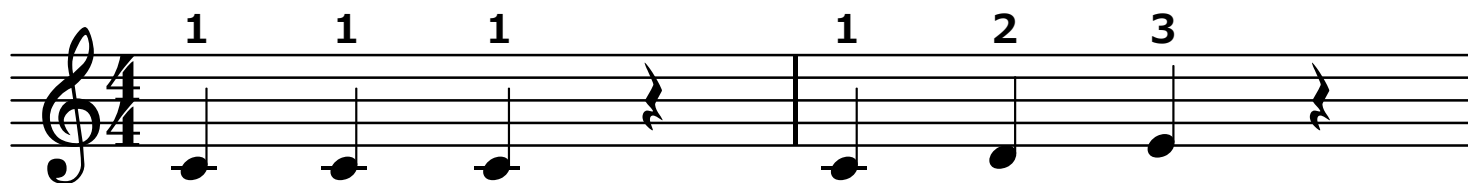


右手を意識して演奏してみましょう **POINT!**

ピアノの場合、楽器を縦にかまえ反対側から鍵盤をおさえることで、左右同じ運指で演奏することができます。

Ⅱ 練習曲を演奏してみよう

1) エチュード1



2) エチュード2（両手の練習）

みぎて 3 2 1 2 3 2 1 2

ひだりて 3 2 1 2 3 2 1 2

1 2 3 1 2 3 4 5

3 2 1 2 3 2 1 2

3 2 1 2 3 2 1 2

1 2 3 1 2 3 5 5 4 2 1

3) イチュード3 (左手の練習)

ひだりて

The musical score consists of six staves, each containing a sequence of notes and fingerings. The first five staves are in treble clef, and the sixth is in bass clef. The notes are as follows:

- Staff 1: Treble clef, 3/4 time. Notes: G4 (finger 3), E4 (finger 1), G4 (finger 3), G4 (finger 3), E4 (finger 1), G4 (finger 3). Slurs are over the first three notes and the last two notes.
- Staff 2: Treble clef, 3/4 time. Notes: G4 (finger 2), E4 (finger 1), G4 (finger 2), G4 (finger 3), E4 (finger 1), G4 (finger 3). Slurs are over the first three notes and the last two notes.
- Staff 3: Treble clef, 3/4 time. Notes: G4 (finger 3), E4 (finger 1), G4 (finger 3), G4 (finger 3), E4 (finger 1), G4 (finger 3). Slurs are over the first three notes and the last two notes.
- Staff 4: Treble clef, 3/4 time. Notes: G4 (finger 3), E4 (finger 1), G4 (finger 3), G4 (finger 3), E4 (finger 1), G4 (finger 3). Slurs are over the first three notes and the last two notes.
- Staff 5: Treble clef, 3/4 time. Notes: G4 (finger 4), E4 (finger 1), F#4 (finger 2), G4 (finger 1), F#4 (finger 2), G4 (finger 3), E4 (finger 4). Slurs are over the first three notes and the last two notes.
- Staff 6: Bass clef, 3/4 time. Notes: G3 (finger 3), E3 (finger 1), G3 (finger 4), E3 (finger 1), G3 (finger 3), E3 (finger 1). Slurs are over the first three notes and the last two notes.

Ⅲ「クリスマスメドレー」を演奏しよう

♪ もろびとこぞりて

Andante ゆっくりと

f つよく

♪ ジングルベル

mf ややつよく
marcato はっきりと

2パートにわかれる (りょうてで)

div.

♪ きよしこのよる

